

羽幌町役場地球温暖化対策実行計画の点検・評価について

羽幌町役場は事務事業活動に伴い排出される温室効果ガスの発生を抑制するため、平成21年度に策定した「羽幌町役場地球温暖化対策実行計画」に基づき、地球温暖化対策に取り組んでいます。

上記計画第4章2に伴い点検を実施し、平成19年度（基準年度）と平成21年度の温室効果ガス排出量（CO₂）を比較したところ次のとおりの結果となった。

1 結果

	19年度(基準年度)	21年度実績	削減量	削減率
CO ₂ 排出量	2,802,096.9	2,714,111.5	△ 87,985.4	-3.14%

温室効果ガス排出量（CO₂）は基準年度と比較し、3.14%の減となった。

2 点検

(1) 温室効果ガス別点検

【温室効果ガス別CO₂排出量表】

	(平成19年度)		(平成21年度)		削減実績量		削減率
	使用量	CO ₂ 排出量	使用量	CO ₂ 排出量	使用量	CO ₂ 排出量	
		(kg-CO ₂)		(kg-CO ₂)		(kg-CO ₂)	
ガソリン	16,587 <small>リットル</small>	38,482	15,424 <small>リットル</small>	35,784	△ 1,163 <small>リットル</small>	△ 2,698	-7.01%
軽油	15,128 <small>リットル</small>	39,635	13,475 <small>リットル</small>	35,305	△ 1,653 <small>リットル</small>	△ 4,331	-10.93%
灯油	202,669 <small>リットル</small>	504,646	253,314 <small>リットル</small>	630,752	50,645 <small>リットル</small>	126,106	24.99%
A重油	161,700 <small>リットル</small>	438,207	102,150 <small>リットル</small>	276,827	△ 59,550 <small>リットル</small>	△ 161,381	-36.83%
LPガス	2,148.4 <small>m³</small>	13,728	1,856 <small>m³</small>	11,859	△ 292.5 <small>m³</small>	△ 1,869	-13.61%
電気	3,184,502 <small>Kwh</small>	1,767,399	3,105,560 <small>Kwh</small>	1,723,586	△ 78,942 <small>Kwh</small>	△ 43,813	-2.48%
合計		2,802,097		2,714,112		△ 87,985	-3.14%

ガソリン、軽油、LPガス、電気は全体的に減少傾向にある。灯油の大幅増とA重油の大幅減は社会教育課所管の「中央公民館」の暖房器具がA重油を燃料とするボイラーから灯油を燃料とするFF式ストーブへ変更となったためである。

尚、灯油とA重油の合算ではCO₂排出量はマイナス（△35,275）となり、これを暖房用燃料としてセットで捉えると、CO₂排出源となる全ての燃料において減少傾向にあるといえる。

(2) 課別点検

【課別CO₂排出量表】

	(平成19年度)	(平成21年度)	削減実績量	削減率
	CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量	CO ₂ 排出量	
	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	(kg-CO ₂)	
総務課	259,009	236,735	△ 22,274	-8.60%
財務課	1,872	0	△ 1,872	-100.00%
町民課	444,009	442,623	△ 1,386	-0.31%
福祉課	141,861	136,205	△ 5,656	-3.99%
建設水道課	707,151	671,013	△ 36,138	-5.11%
農林水産課	21,916	43,451	21,534	98.26%
商工観光課	100,877	96,895	△ 3,982	-3.95%
学校管理課	762,787	756,053	△ 6,735	-0.88%
社会教育課	325,035	291,611	△ 33,424	-10.28%
天売支所	20,321	15,658	△ 4,663	-22.95%
焼尻支所	17,259	23,870	6,610	38.30%
合計	2,802,097	2,714,112	△ 87,985	-3.14%

財務課は公用車の集中管理により、対象施設が無くなったことによりCO₂排出量は「0」となっている。農林水産課は所管施設の「漁村改善センター」の利用が増加したことにより、大幅増となっている。焼尻支所は新規に体育館の一般開放を実施したことにより、増加している。

3 評価

削減率が基準年度対比で-3.14%達成したことは様々な取組みの成果として評価できる。主な取組成果として考えられるものは以下のとおり。

- (1) 照明の点灯時間の削減による電気使用量の削減
- (2) 各施設の適正な温度管理による燃料使用量の削減
- (3) 低燃費車の導入による燃料使用量の削減

しかしながら、平成20年度と平成21年度のCO₂排出量を比較すると、全体で1.73%の増加となっている。その主な要因を燃料別及び施設別にみると、以下の順にCO₂排出量が増加している。

- (1) 学校の灯油及びA重油（厳冬による暖房器具使用増のため）
- (2) 漁村改善センターの電気（施設利用増のため）
- (3) 焼尻体育館の灯油（施設使用増のため）

以上のことから、施設の有効活用を図りながらも、省エネタイプの機器導入等による燃料や電力消費の節約に努め、今年度以降より一層CO₂排出量削減への取組に努力する必要がある。